

重度身体障害者グループホームの建築構成と居住実態

ー重度身体障害者の地域居住に関する研究 その1ー

日本建築学会計画系論文集 第76巻 第662号/pp.735-740/2011年4月

正会員 松田 雄二 君

本研究は、東京都の独自事業である重度身体障害者グループホームの建築的特徴と入居者の行動特性と居場所の分析を行うことにより、重度身体障害者グループホーム一般に必要なとされる建築的特性を明らかにすることを目的とした研究である。8つの施設に対して、2年のインターバルを置いて測定した、重度身体障害者の日常生活の実態のデータは貴重なもので、このデータをもとに綿密な分析を展開している。特に、経年的データからは居住者のライフステージにとっての施設の位置づけを明らかにしている点、さらに、行動特性の分析をもとにクラスター分けした居住者類型とそれに対応した空間の在り方を提示している点が評価できる。居住者類型によって外出行動、共同のLDK、居室での過ごし方が異なっているという指摘は、今後の施設計画において重要な知見であるといえる。既往研究への細かな目配りと、補足されたデータの綿密な解析に基づく建築計画の論文として高く評価したい。